

病院長のごあいさつ

病院長

竹中 洋



大阪医科大学附属病院は、本年9月に新総合棟7号館を全棟オープンいたしました。また、昨年からは実施した患者様に分かりやすい病院診療としての臓器別内科診療科制も11月で1年が経過いたします。院内表示も工夫を凝らし、安心してご利用いただける病院空間を心掛けております。また、実際の診療面では、病診連携、病診連携を通じた患者様本位の治療提供を最大の目標としております。

病診連携の基本は患者様に、病態と重症度に見合った診療を無駄なく地域で提供できることにあります。我々は地域に根ざした特定機能病院として、高度で先進的な診療を担当していく所存ではありますが、医育機関として医学教育に勤む義務を負っております。従来はともすれば後者の意見が重視される傾向にありました。しかし、ここ数年は前者を全うすることで、後者も成就すると考えております。その為には医師のみならず看護師、薬剤師や病院職員一丸となって、チーム医療の実践を行って参ります。

患者様から投書箱を通じていただいたご意見やご指摘を、院内で公開しております。遅々として進まぬ改善にお叱りを受けることもありますが、歩みを止めることなく地域と共存する大学病院を目標に頑張っておりますので、ご理解とご支援をお願い申し上げます。

地域一体型看護とチーム医療を目指して

看護部長

神谷 美佐子



近年、少子高齢化の進展、医療技術の進歩、国民の意識の変化等を背景に、医療機関の機能分化や連携が進むなか、質の高い効率的な医療提供体制の構築が課題となっております。在院日数短縮化にともない、患者様の病態に応じた医療提供を目指した在宅医療・看護の必要性が高まっております。

大阪医科大学附属病院は地域の中核病院として、地域社会の医療ニーズに応え、進歩・発展することを理念としております。看護活動としても、患者様・ご家族の参加をもとに、信頼を得る安全で効率的・計画的な看護サービスを提供できるよう取り組んでおります。看護師は患者様の回復過程を診ながら、病院医療相談部・病診連携室を基地として、医師、薬剤師、コ・メディカルスタッフ等とともに、患者様の自立への働きかけを行っています。

私は大阪府看護協会府北支部（高槻・茨木・三島地区）の支部長として、地域の看護職との情報の共有と連携を密にはかるよう努めております。月例会では、病院、在宅および訪問看護ステーションが抱えている問題等の情報交換を行い、解決へ向けての方策について話し合うことにより効を奏しています。

大阪府看護協会、地域看護事業部が病院と訪問看護ステーションの相互研修の企画を設けております。当院でもそのような研修を受け入れ、相互の理解をはかることにより、地域医療の一体化と看護の連携が深められることを期待しています。今後とも、患者様中心の医療・看護が提供できますよう皆様のご指導・ご支援を宜しく申し上げます。

病院7号館の特徴について

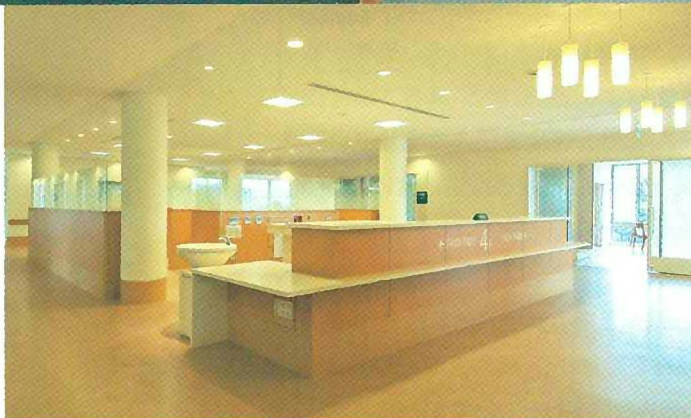
病院事務部 部長代理 三宅 努



病院7号館は7月に外来が移転し、9月に病棟が移転しました。

病院7号館の特徴を1点挙げるとすれば、明るく開放的なイメージによる療養環境の整備という点です。

外壁にはガラスを多用し、待合やロビーに外の光と景色を取り込む考え方を採用しています。特に1階ロビーはゆったりとした空間です。ここでは患者様向けの情報発信コーナーを設けたり、院内コンサートの開催も予定しています。また大規模災害が近隣で起こった時には、トリアージなどを行う場所としても活用できます。



病室は4床部屋と個室の構成で窓を大きく取り、各病室にトイレを配置しています。各病棟のデイルームも明るくくつろげる空間として、療養環境の整備をはかっています。食事も温冷車で配膳し、温かい物冷たい物を召上がっていただくようにしています。あわせてナースステーションも天井までの仕切りとせず、開放的な造りとしています。更に10階は特別の内装にしているほか立入管理も行い、特に良好な環境を作っています。古い旧病棟をご存知の方は様変わりの印象をもたれると思います。



しかしながら、明るく開放的ということは、その裏返しとして「見えすぎる」ということでもあります。中から外が見えるということは外から中も見えるということ、また誰でも立ち入りやすいということです。これらの二律背反をどのように調和させていくかが課題です。お気付きの点があればご意見を賜りたく存じます。また、病院7号館のみならず、移転した後の外来や病棟の改修を計画中です。必要とされる診療機能の充実に加え、療養環境の整備を引き続き行ってまいります。

形成外科最近のトピック

形成外科 科長 上田 晃一



形成外科は、皮膚をはじめとする軟部組織や骨組織を含めた顔面全域など広い範囲を対象とする診療科です。大阪医大では顔面骨骨折や外傷・悪性腫瘍の切除手術後などに生じた組織欠損の治療、口唇口蓋裂をはじめとする主に頭蓋・顎・顔面および体表面の先天異常の治療、皮膚腫瘍、外傷による傷や変形、熱傷や外傷によるケロイド・肥厚性瘢痕、血管腫やあざ・しみを中心として診療を行っております。最近では1.マイクロサージャリーの技術を用いた組織移植再建、2.骨延長手術を応用した頭蓋顎顔面外科、3.レーザー治療による血管腫・あざ・しみの治療、4.培養真皮を用いた再生医療などの治療が大きな進歩を遂げており、より積極的に行っております。この4つについてご紹介いたします。

1 マイクロサージャリー

これは手術用に作られた顕微鏡を使って手術することです。5倍から20倍位までの倍率に拡大させて手術します。形成外科では細い神経や細い血管をつなぎ合わせるなどが主な目的です。血管について言えば直径1mm位の太さの血管でも楽につなぎ合わせることができます。例えばこの技術を応用して乳癌の手術のあとに下腹部の皮膚と皮下脂肪を筋肉と栄養血管を含めて切り取り、この栄養血管を胸の血管と吻合することで血液が皮膚に循環し乳房再建ができます。このような遊離皮弁移植術はこのマイクロサージャリーができるようになってはじめて実用化した方法です。また顔面神経麻痺で動かない部分に、背中や太ももの筋肉を神経と血管をつけて移植を行うことで表情を作るようにする手術もマイクロサージャリーの技術を応用したものです。

2 骨延長手術

これまで短縮した骨や欠損、先天的に骨が足りない場合には、骨移植を行う必要がありました。例えば下肢の骨が短い場合に、短い骨を中央で輪切りにして、その上下に特殊な装置を着けて、1日1mmずつ伸ばしてゆきます。輪切りにした部分は1mmずつ離れてゆきますが、その間に少しずつ新しい骨が再生して結果的には骨を3cmや5cmも伸ばすことができます。この方法を顔や頭部の骨に対して応用する手術が盛んになって来ました。例えば睡眠時無呼吸発作の原因となる小さい下アゴを大きくするには、今までなら顎の骨を切って修正位置まで移動し、間にできた隙間には骨を移植するというものでした。しかし伸展法を用いれば骨移植の必要もなく、骨だけでなく皮膚も伸ばされて形態や機能の改善が得られるという利点があります。頭蓋の縫合線が早期に閉鎖して大きくならない場合にもこの方法で拡大させることができます。

3 レーザー治療

血管腫やあざの治療には保険適応となっているレーザーが導入されています。

血管腫にはダイレーザー、あざにはQスイッチアレキサンドライトレーザーがあります。最近のレーザーは超短時間の照射で目的とする色素とその周囲のみに限って熱変性を発生させます。この熱変性で色の素を破壊します。

4 再生医療

現在本当の意味で実用段階に入っている再生医療は皮膚外科領域のようです。自分自身や提供を受けた皮膚の一部を培養する培養真皮を利用してなかなか治らない皮膚潰瘍の治療や子供のやけど後のひきつれの治療に応用しています。やけどの瘢痕の治療に植皮術を必要としますが、植皮を採取した所の傷跡が問題となります。この方法は手術は2回かかりますが移植する皮膚を限界まで薄くしても手術後のひきつれが少なくなります。また皮膚を採取した部分の傷跡がとてもきれいに治ります。

以上の方法以外にもいろいろな治療方法があります。いつでも気軽に受診してください。



セカンドオピニオン外来のご案内

大阪医科大学附属病院は病院理念をもとに診療を行っています。その一環として平成17年6月1日より「セカンドオピニオン外来」を開設しております。

相談の対象となる方

原則として患者様ご本人ですが、同意書をお持ちになればご家族だけでも相談は可能です。ただし、患者様との続柄を確認できる書類(住民票、健康保険証など)をお持ちください。※告知を前提とする

相談内容

- 現在の診断・治療に関する専門医としての意見の提供
- 今後の治療に関する専門医としての意見の提供
注)訴訟を目的にしている場合、診療費等についての相談、転医希望の相談は対象外となります。

申し込み方法

完全予約制ですので、現在おかけの医療機関をとおして病診連携室にお申し込みください。

料金

1時間 15,000円(消費税込み)
※健康保険適用外で、全額自費になります。

セカンドオピニオン外来患者数(平成17年9月末現在)

呼吸器内科	1
消化器内科(肝胆膵)	1
消化器内科(化学療法)	12
消化器外科	2
脳神経外科	1
婦人科・腫瘍科	2
泌尿器科	3
放射線科	1

お申し込み・問い合わせ先

病院医療相談部・病診連携室
TEL(072)684-6338
FAX(072)684-6339

受付時間

平日/8:30~16:00
土曜日/8:30~12:00(正午)
※第2・4土曜日は休診です。

編集後記

平成17年7月25日付けで(財)日本医療機能評価機構の認定証の交付を受けることとなりました。このことは、全職員が一丸となって努力をした結果であり、この対価を無駄にすることなく地域医療の発展の為に努力を重ねていきたいと考えます。

その後、病院7号館が完成し、内科・産婦人科・眼科外来が移転いたしました。9月末には4階から10階までの病棟も移転します。多方面にわたって、患者様・医療機関の方々にご迷惑をおかけしました。今後も跡地を含めて移転・改修が繰り返されます。私どもの病院医療相談部も本年度中には移転の予定です。何卒ご理解いただけますようお願いいたします。大阪医科大学附属病院が新しく生まれ変わる過渡期だにご理解していただければ幸いです。

みずき創刊号「病院7号館」に関する掲載内容の訂正とお詫び

先般発行させていただきましたみずき創刊号において、病院7号館に関する掲載内容に一部誤りがありました。ここに訂正し、お詫びいたします。

誤

ベッド数252床
1階が内科専門外来(臓器別)
2階が総合内科外来
10階がVIPセンター
9月26日に入院ゾーンのオープン



正

ベッド数253床
2階が内科専門外来(臓器別)
1階が総合内科外来
10階が個室病棟
9月23日に入院ゾーンのオープン